

第四回 日中合同シンポジウム基調講演 —「求佛是造地獄業」—

日本妙心寺靈雲院

中日佛教友好使者 則竹秀南

今年は臨濟禪師壺千壺百五十年遠諱正当年を記念しての第四回日中合同シンポジウムが宗祖因縁の地、石家荘で開催されますこと大変有意義であり、且つ慶賀に存じます。三年前の二〇一三年九月、やはり第三回日中合同シンポジウムが当地にて盛大に開催されました。両国の佛教者は勿論、儒教、道教、イスラム教の方々も参加されていたことを記憶しています。そして、参加者が臨濟禪のすばらしさ、人々に安心を与える教えであることを確認し、終了後に肖河北省仏教協会秘書長より、今年の日中合同の壺千壺百五十年遠諱法要の提案を受けて、私は歸国し有馬頼底日中臨黃友好協会会長にその由を伝え、その後二人で中国仏教協会、中国国家宗教局及び河北省仏教協会を訪問し、各々了承を得て本年の法要を迎え、それに伴い前日にこのシンポジウムの開催となったのであります。茲に明海河北省仏教協会会長はじめ関係各位に感謝の誠を捧げ御礼申し上げます。

扱、本題に入ります。すでに臨濟禪師については中国に於いても、日本に於いても臨濟録の根本精神、禪風等について研鑽されております。今回は臨濟録の中より經典の引用を以って禪的眼による經文の解釈と禪的境地を示されたところに眼目をつけたい。これを看經の眼と云い、見性の眼をもって經典を読むことである。

「大通智勝仏十劫坐道場仏法不現前不得成佛」とは何かとの僧の質問に答えて臨濟禪師は自分の宗教的体験より、独自の見解を示される。自己の見性の眼をもって読むことである。あらゆる場所において森羅万象、あらゆるものが無性であり、無相である。本性も、決まった姿もなく、全て動いて行くものである。見性の眼から見ると、日本の富士山も、中国の天台山も峨眉山も徑山も皆同じ大小高低縦横もなく、全て同じで全宇宙に通じていると分かることが大通である。

智勝とは、すべての處で般若の智慧が勝れているので何も疑うものはなく、そこは有でもなく、無でもなく、悟りもなく、迷いもなく、自己も他人もない。天地全てが般若の智慧である。

そこが分かれば一念も起らない、邪念もないところが心清浄であり、光明法界に透

徹している十方世界全て本来無一物である。それが佛であり、臨濟禪師は心の法は姿形なく十方世界に満ち満ちていると示される。

廿世紀前半に暗黒物質が発見された。これは姿形の全くないもので、この大宇宙一杯に満ち満ちている。しかも、森羅万象全てをぶち抜いて行く、つまり、机も壁もぶち抜く、ビルも山も海もこの地球もぶち抜いて了う偉大な奴である。これが実は宇宙の創造に関わっていると云うことで全世界の学者達を驚かした。そして、現代この暗黒物質の実証に世界中の学者がやっきになっている。日本でも山中に長いトンネルを掘ってこの物質を見とどける研究が進んでいる。

扱、この暗黒物質についてよく考察するに姿形はない無色透明、無臭である。本来何もない奴である。本来無一物であるが故に、あらゆるものをぶち抜くことが出来る。形があれば物にぶつかると、そのものと互いに反発してぶち抜くことは出来ない。しかも、この暗黒物質が何もないが大宇宙の最初の創造に関わっている大変重要なものである。宇宙の根源である。

そこで、私達の具有する佛心、本心についても又同様に云える。臨濟禪師は心法形無くして十方に通貫すと示された。私達の心の法、心の真理、つまり、佛心は姿形なくして十方世界、大宇宙をつらぬいている。ぶち抜いているのである。しかもこれが創造的主体性である。つまり、宗教的真理と科学的真理とは全く同じであり、科学の世界でやっと前世紀に理論上発見したものを、釈尊は二千数百年前に自己の内に発見し、同様に臨濟禪師は壱千壱百年前に自ら発見した。何とすばらしいお方である。私は先の祖師方の血の出る修行とこの発見に敬意を表わす。そして、人類の最も重要、且つ必ず目覚め発見し相続して行くべきもので、これなくして人類の存続はないと確信する。

十劫坐道場とは十波羅蜜のことで、この行に徹し三昧に入っていて、本来私達の本心は不生不滅で不來不去であるから仏法が現前することもない。

更に、已に佛になっているから佛になることもない。つい私達は佛になりたいと佛を求めるが、それは本来佛でない証拠である。このところをよく見極め、はっきりしておくことである。臨濟禪師は上堂の無位の真人を、示衆で外に求めるな。求めることをやめよと、口酸っぱく説かれる。

ここを「你諸方に言道、修有り証有りと。錯ること莫れ。^{たと}設い修し得る者有るも、皆な是れ生死の業なり。你言う六度万行齊しく修すと。我れ見るに皆な是れ造業。仏を求め、法を求むるは、即ち是造地獄の業。菩薩を求むるも亦是れ造業。看経看教も

亦た是れ造業。」と示され、仏を求め法を求めるのも地獄へ落ちる業作りで、菩薩になろうとすること、経典を読むのも、やはり業作りだと、厳しく説かれる。

又、「大徳、^{あやま} 錯ること莫れ。我れ^{しばら} 且く^{きょうろん} 你が^げ 経論を解することを取らず、我れ亦た^{べん} 你が^{けんが} 国王大臣なることを取らず、我れ亦た^{べん} 你が^{けんが} 弁の懸河に似たることを取らず、我れ亦た^{べん} 你が^{けんが} 聡明智慧を取らず、唯だ^{べん} 你が^{けんが} 真正の見解を^{もと} 要む。

^{たと} 道流、^{げとく} 設い百本の経論を解得するも、一箇の無事底の阿師には^{あし} 如かず。

^{にんが} 你解得すれば、即ち他人を^{むみょう} 軽蔑す。勝負の修羅、人我の無明、地獄の業を長ず。」とも説かれる。

この臨済禅師の正しい法に則った見識を、今一度私達はよく吟味し、自分の骨髓として日々過し度く思い、明後日の日中合同大法要に随喜出頭して願心を、更に奮い立たせて宗祖の正法を滅却しない様に精進しましょう。